

地域から築く 「新しい公共」

横浜市都市経営局政策課

vol. 158

調査報
季報

「公共世界」の再編成が、横浜市においても政策的課題として大きく浮上する中で、横浜市役所の内部の「構造改革」については、前号157号で特集した。今回は、地域の課題に取り組む市民の活動が、どのような「公共世界」を形成し、横浜という地域社会の中でどのような役割を果たしているのか、という点に焦点をあて「地域から築く「新しい公共」」と題して特集を組んだ。

公共は行政のみではなく、市民、NPO、地域組織、企業など様々な主体が担うものである、という「新しい公共」論は、公共「公共サービス」という側面で語られることが多い。一方、市民の活動や地域社会の現実に目を転じるならば、そこ、ここで小さな「公共世界」が多様に展開していることに気付かされる。ことさら「新しい」という言葉で括る必要もなく、また「公共サービスの担い手」という言葉でも捉えきれない世界である。延々と積み重ねられてきたこの地域における市民の活動は、しかし、確実に次のステップに入ろうとしているようだ。空家などを拠点とした小さな事業体としてサービスを提供し、また、独自のネットワークを形成し、必要に応じて「新しい仕組み」を生み出している。誌面において表現しづらい世界ではあるが、このような地域の公共世界を確かなものになるために、行政はどのような仕組みを用意し、どのように仕事を進めるべきなのか、考えてみた。

「新しい公共」論をより深めるための手がかりを提供できれば、と思う。